

# 陰陽五行論壇Contents

六十花甲子(壬)

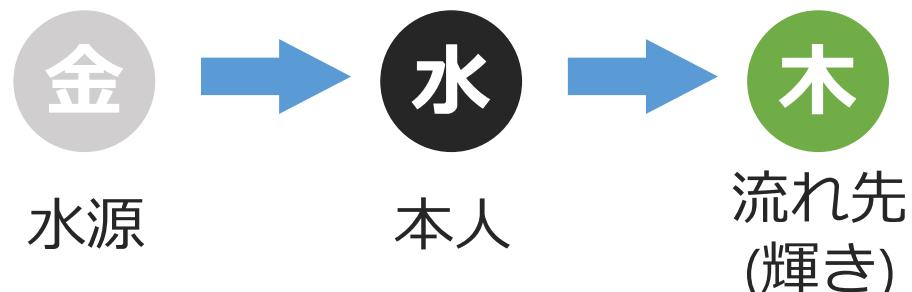
# 六十花甲子

壬→龍高星の特質(知的好奇心、改良改革)

器は流動(広範囲の行動・活動/興味・着眼)

- 主役でなくとも、必要不可欠な存在。  
→存在感のある人となりとなる。  
(水は全てにおいて必要な存在だから。)
- 動いている中で役割を果たす。  
(水は流動していなければ腐敗する。)

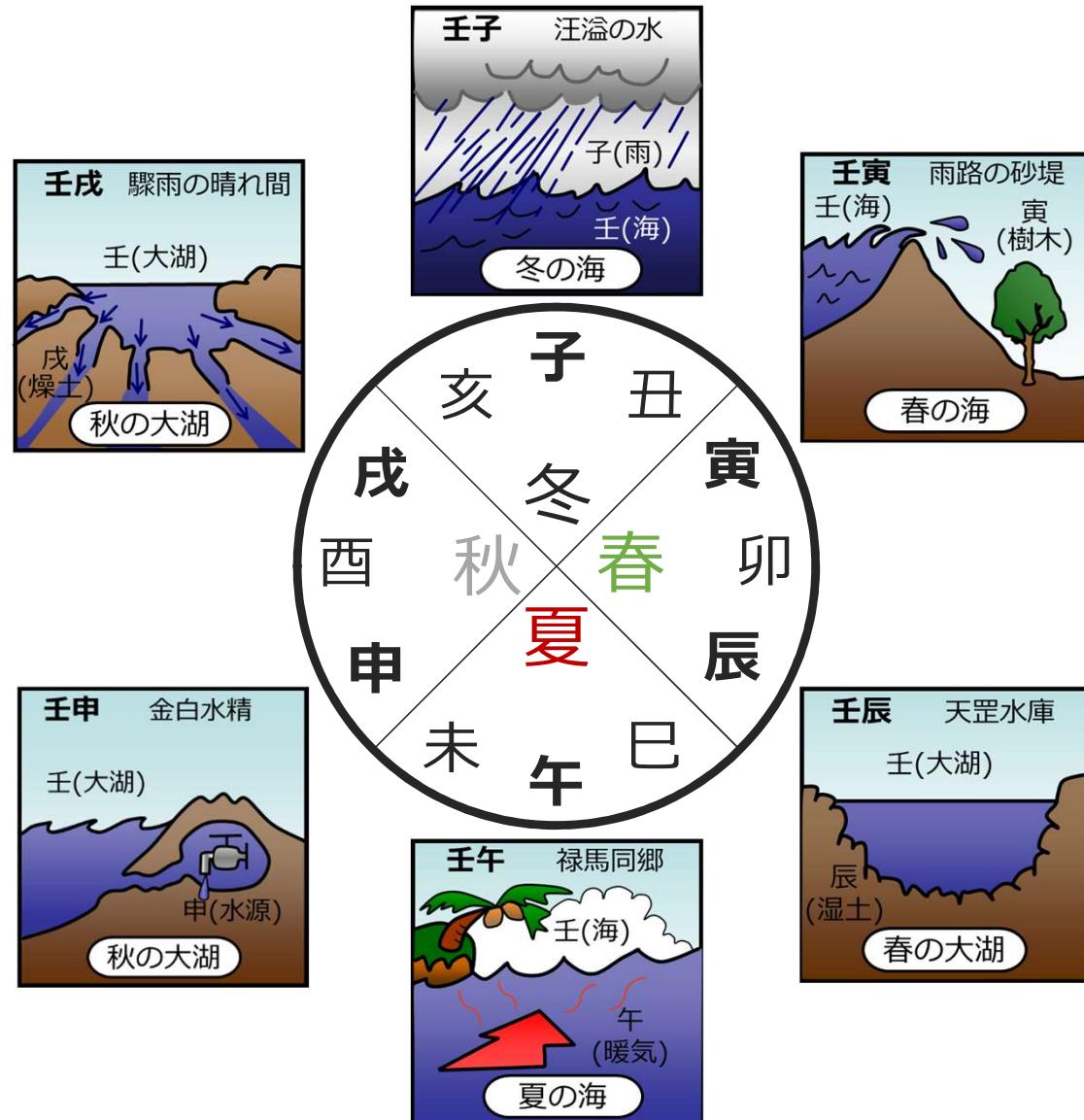
## 水の三段論法



水は洩氣することで才能を發揮する。

# 壬の種類

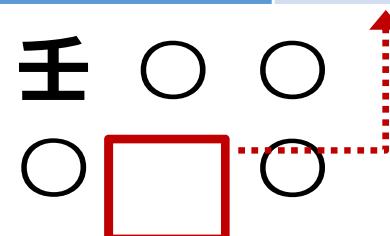
同じ壬でも組み合わさる地支によって特徴が異なる。



No.	名称	別名
9	壬申	金白水精
19	壬午	祿馬同鄉
29	壬辰	天罡水庫
39	壬寅	雨露の砂堤
49	壬子	汪溢の水
59	壬戌	驟雨の晴れ間

# 壬と季節

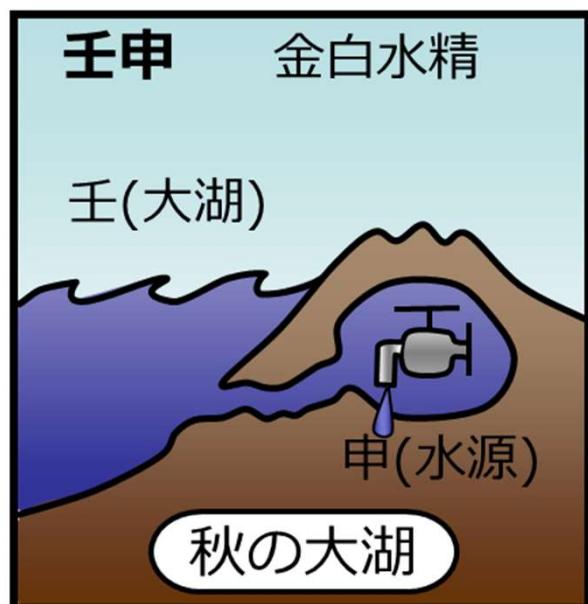
夏の水	巳・午	枯れ易いので水源(庚)が必要。
秋の水	申・酉	澄んでいるので、濁さないためには甲・乙でろ過をする。更に秋の季節は寒さが始まるので丙で暖かさを取り入れる。
冬の水	亥・子	強水で冷たい。暖かさ(丙)、強い水を押さえる防波堤(戊・己)を取り入れる。
春の水	寅・卯	濁水(雪解けの水)のため、ろ過(甲・乙)、または流れ先(甲・乙)を必要とする。
土用の水	丑・辰 未・戌	流れが止まる。改良として、水源(庚・辛)と流れ先(甲・乙)を取り入れる。



日干の壬と、月支によって判定する。

# 壬申～金白水精(きんぱくすいせい)

壬 水  
申 金 → 天貴星(9)  
戊 土 → 車騎星  
壬 水 → 貫索星  
庚 金 → 龍高星



壬の中でも最も澄んだ  
奇麗な水とされる。

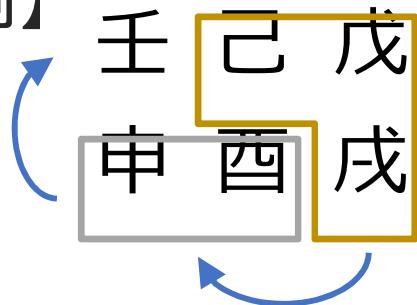
えんすい  
**淵水**

知恵のある人だが、発揮する  
のが遅い。子供(幼児)の頃に  
良さが出難い。学術に優れ  
理性に富む。努力家。

# 壬申～金白水精(きんぱくすいせい)

- 金白水精は特別扱いとし、わずかでも濁ることが凶となる。特に申・酉・戌の秋生まれで、かつ土性多過は凶。※土性(濁り)→金性→壬申で最も汚されるから

【例】



生じられているが土混じりの水。  
流れ先となる木性は無く、ただ  
濁り滞留して行くのみ。

- 頭が良く学術に勝る者が多い。
- 丙(暖)は人生を平穏にする。
- 甲・乙の流れ先があると、本人の秀英が世に出る。

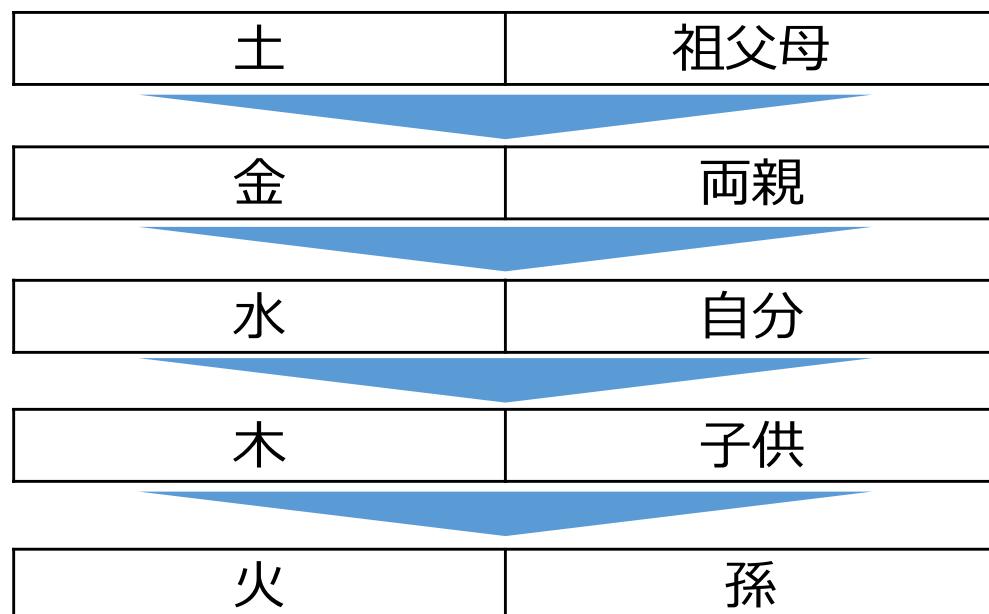
# 壬申～金白水精 (きんぱくすいせい)

- 戊・己は水路を作り、乱流を押さえる。

戊・己は防波堤または水路となり、人生の進むべき方向性を示してくれる。

但し、土性が強すぎると…

順流の精を失い(流れがせき止められるから)、毒舌をふるって自他共に傷付いたり、親不孝の典型となる(次ページ参照)。



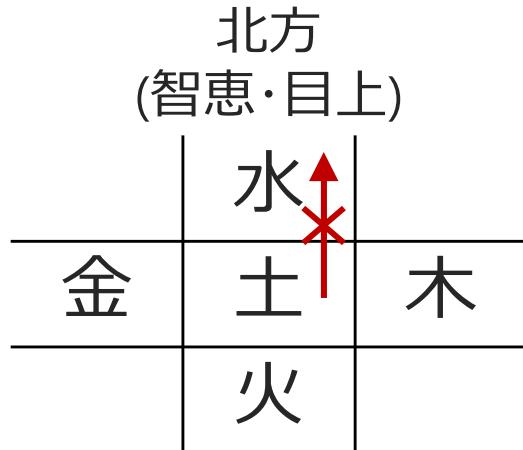
## 順流の精

先祖から自分、自分から子孫への流れ

# 壬申～金白水精(きんぱくすいせい)

- 壬は北方=知恵の場所。

\*自然の気図法



- 北方、智恵の場所が綺麗であれば  
学術に優れ、理性に富む。
- 土は水を濁し、淀ます。  
土剋水となり、目上を剋す。

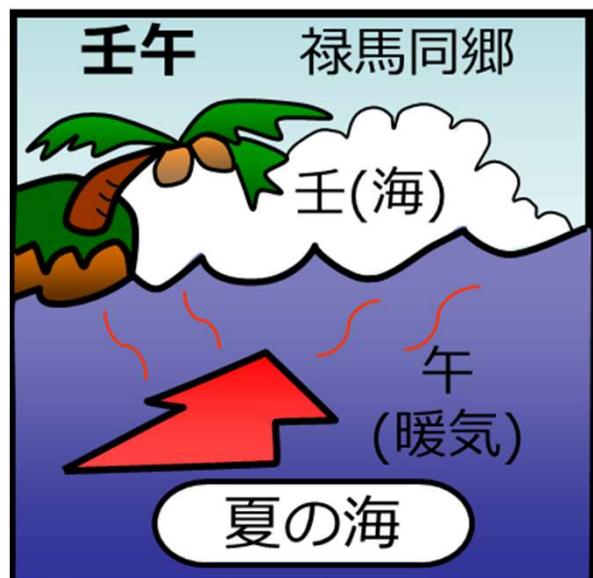
- 水は特に流れが大切。

- 停水は腐る(=役目を失う)。
- 腐った水は体調不良の原因となる。  
※人間の身体は大部分が水分である。

# 壬午～祿馬同鄉(ろくばどうきょう)

壬 水  天報星(3)  
午 火  
己 土 → 牽牛星  
丁 火 → 司祿星

見かけの穏やかな  
樂園のような南の海  
(穏やかだが嵐のくる手前)



## ろくば **祿馬**

変転・変化が激しく多成多敗の人生。  
夏海(なつうみ)といい、地上の熱気と  
海原の冷気(海水の心地よさ)との接点  
とし、暗く中庸を保ち難い。その為、  
人生に波乱多し。

# 壬午～祿馬同鄉(ろくばどうきょう)

- 水と火のバランスを崩さず、そのまま安定を保つ生き方も成功する運。
- 「水火既濟」の生き方  
→激しく見事に美しく生きる人生  
(水と火…異質なものの完全美)

女性の水火既濟(性格の激しさ・厳しさ)は、通常の結婚生活が成立しがたく、一人で人生を切り開いていく人となる。  
(男性に頼らず、男性を手玉に取る人)

## 後天運(大運・年運・月運等)

壬 ○ ○  
午 ○ ○

子一午	対沖	激しくゆすられ財・平和を失う
丑一午	害	不規則にゆすられ財・平和を失う

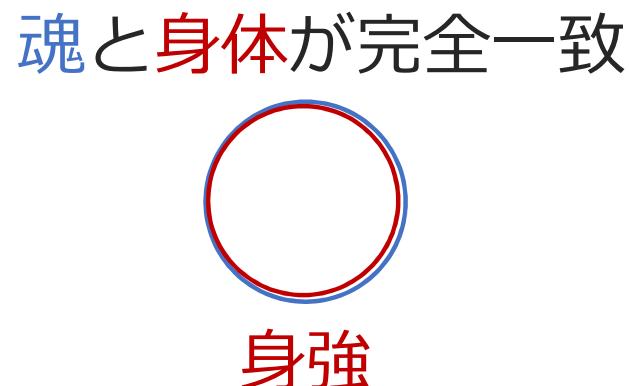
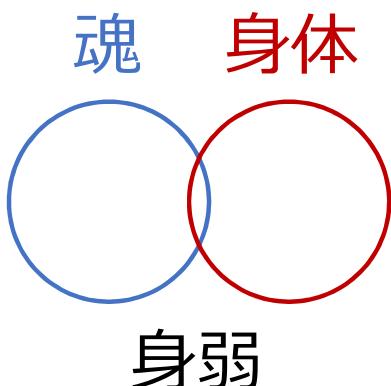
# 壬午～祿馬同鄉(ろくばどうきょう)

- 十二大従星は天報星が表出し、現実・実社会での心の在り方は決して強い人ではない。しかし、その弱い部分や脆い部分が、特別に修行などしていくなくても靈感能力となり、予知夢を見る。

\* 霊感能力現象の出易い人

→身弱・独身・孤独・火と水の分量がアンバランス

(まるで、ヘビのような光る目をしているのが特徴)



# 壬午～禄馬同鄉(ろくばどうきょう)

壬  
午  
己  
丁

「  
司  
祿  
星  
財  
力  
」

↓

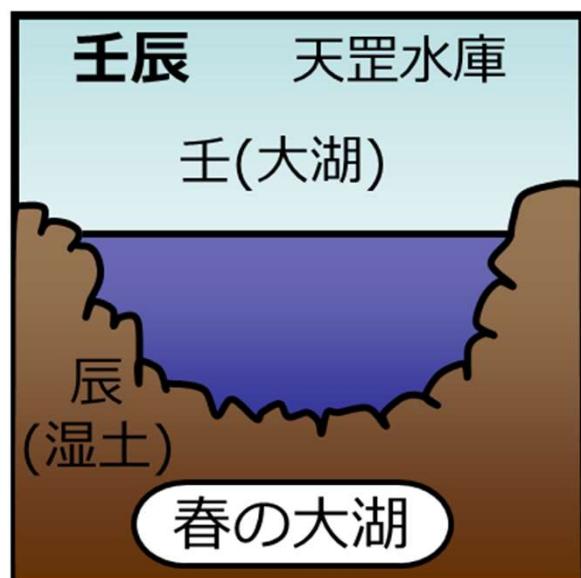
「  
牽  
牛  
星  
名  
聲  
」

- 壬午日柱は座下(藏干)に己・丁が含まれ、十大主星に表出すると牽牛星・司祿星となる。
  - つまり自己の座下に名誉(牽牛星)と財(司祿星)を兼ね備えた人生となる。
  - 故に、この日生まれを禄馬同鄉と表現して、まるで馬の鞍に財宝と名刀(地位を象徴するもの)をくくりつけて品性を進むかの如く人生となる。
- 壬午は、座下に牽牛星(正夫)・司祿星(正妻)が備わっており、配偶者と家庭が容易に備わり易い事を暗示している(壬午日柱の場合)。
  - しかし、更に他の部分にも牽牛星・司祿星(己・丁の透干)が表出すると、配偶者多過・家庭多過の人生となってしまい、苦しみが多くなる。

# 壬辰～天罡水庫(てんこうすいこ)

壬 水  天庫星(5)  
辰 土  
乙 木 →調舒星  
癸 水 →石門星  
戊 土 →車騎星

男性に吉の干支  
(仕事運が上がる)



## りゅうはい **龍背**

男女とも芸術的才能を所有。春水といい、大海に収まる水。女性は隆盛な家庭に生まれ易く、成長すると家庭運が下がる。男性は貧困な家庭に生まれ易く、成長すると家庭運が伸びる。

# 壬辰～天罡水庫(てんこうすいこ)

- 男女共、運が強く六十干支中で最もねばり強い質を持つ。

**男性**

強運が仕事に表れる(吉)。

**女性**

淫逸(いんいつ)※になり易い。異性関係に出易い。  
※男女関係がみだらな事。

## 改良 ちゃんと仕事を持つこと

(但し、夫・子供運は薄くなる)

- 他の支に亥・子を所有すると「壬騎龍背格」に入り、見事に運が上がる(入格者)。

【例】壬騎龍背格

壬 ○ ○

辰 子 亥

+ 庚(水源)・甲(水路) があると運の急上昇

架空の動物: 龍

# 壬辰～天罡水庫(てんこうすいこ)

- ・ 戌の冲を見れば、龍は地に隠れ、世に出なくなる。但し、戌に冲されて(座下が不安定)、例え世に出る機会が無くとも、生活に困窮することは無い。
- ・ 何もしなくても生活には恵まれ、結果的に怠け者になる要素を持っている。必要に迫られなければ何もしない人生に流れる事もある。

【例】

壬 戊 庚

水庫が壊れ、龍が地に隠れる

辰 戌 子

全体が冷えている

➡  
冲

辰一戌の対冲あり

# 壬辰～天罡水庫(てんこうすいこ)

- 成功すると家庭・子・親・地位・金銭物質と様々な制約を受け、逃げ出したくなる。  
大きな成功を得る代償として、大きな制約(人生における不自由さ)を受ける。結果的に、その制約を手放したくなる衝動に駆られる。
- 壬辰日柱は天庫星が表出されるが、壬辰 자체が大変に色事に縁が深い。
- 壬辰日生まれで、他に天恍星が表出される場合は男女問わず色事に注意の人となる。(天恍星の要素が壬辰と絡み、更に強く表面化)

# 壬辰～天罡水庫(てんこうすいこ)

## 【注釈】

- ※ 天恍星…「桃花殺(とうかさつ)」と表現し、色事で身を崩しやすい星の代表としている。
  - 元来、天恍星は青少年の心であり、怖いもの知らず、次々に目新しいものに興味を示すことがあり、移り気な人でもある。
  - 天恍星は色事に奥手になるか、成就しないという現象が出る。

# 壬寅～雨露の砂堤 (うろのさてい)

壬 水  
寅 木

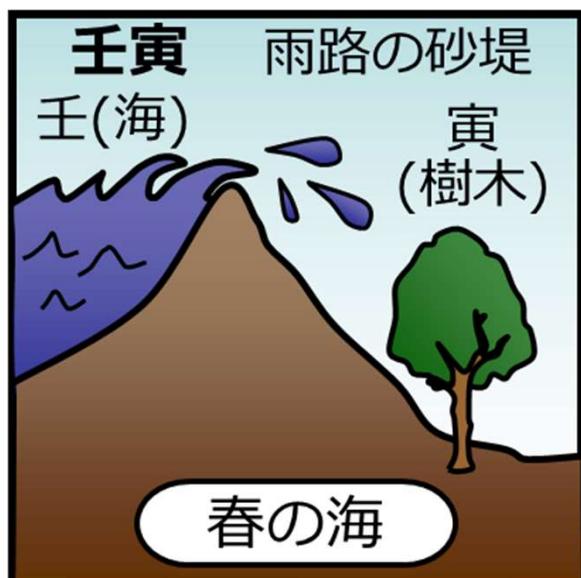
天胡星(4)

戊 土 → 車騎星

丙 火 → 祿存星

甲 木 → 凤閣星

あまり大きな問題の無い干支



ほっこ  
**北虎**

画才のある人、芸術家(描く)の星。  
大胆な絵を描く人。  
雪解けの濁流を土が支えている。

# 壬寅～雨露の砂堤(うろのさてい)

- ・ 壬寅日柱は座下(藏干)に戊(車騎星)・丙(禄存星=経済)・甲(鳳閣星=ゆとり)を備えており、それらが一体となつて役目と経済と寿命を構成している財運に恵まれる干支である。
- ・ 壬寅日柱で、他に金性と水性のみに囲まれている場合は、名譽運と財運の両方が揃い、「河雄格(かゆうかく)」と云い、富者の宿命となる。

## 【例1】

壬 辛 癸  
寅 酉 亥

金性・水性のみに囲まれる。  
全てが寅に集まる(流れる)。  
河雄格～富者の宿命

## 【例2】

壬 甲 丁  
寅 辰 酉

五行完備の宿命。  
安定した大海の姿。

# 壬寅～雨露の砂堤(うろのさてい)

- 壬寅日柱は、柱 자체がしっかりとした水路(戊)に支えられ、理想を求めればひとつの水源(庚・辛=龍高星・玉堂星)があり、ひとつの流出先(甲・乙=鳳閣星・調舒星)が喜びとなる。(水の三段論法に合致するため)
- 陰陽五行論の格言で「金多くして水濁る」という言葉がある。ひとつの水に水源(特に陰陽混合の場合)が多くあり過ぎると、水は濁るのが原則である。そこで、金多くして水濁る(日干が水の場合～龍高星・玉堂星多過)人は、あまりにも頭が良過ぎて、その知恵を悪事(濁り知恵)に働かすことになる。どんなに水源が多くて水が濁っている場合でも、他に木性(濁りを吸い取る効果と、流出先の効果)がある事で救われる。

# 壬寅～雨露の砂堤 (うろのさてい)

- 壬寅日柱は、他に土性が多くあること(大湖・大海の広がりを制約され価値が薄れる)を嫌う。

【例】

壬 辛 戊

土多・金多の宿命。

寅 酉 戌

制約の多い大海。広がりなし。

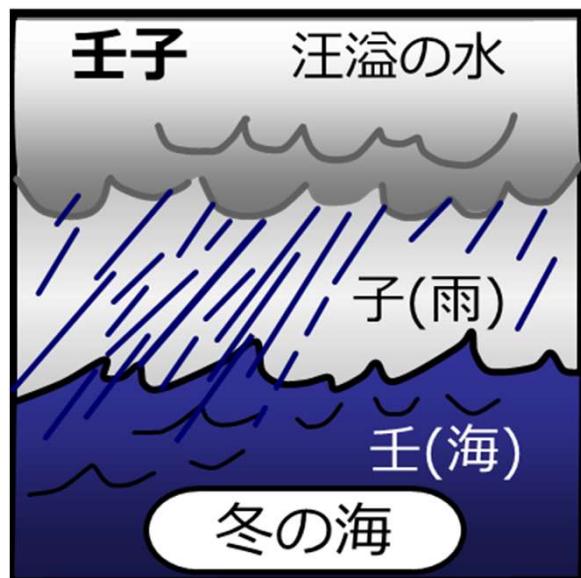


水は流れてその役目を果たす。  
壬(流動)は大きく流れ世界に名が広がる。

# 壬子～汪溢の水(おういつのみず)

壬 水 ) 天将星(12)  
子 水  
癸 水 → 石門星

気をつけること。  
並みの洞察力では  
見抜けない。  
(本心がわからない)



## げんおう **玄王**

天地共に水であり、その力は  
強い。自分一代で物事を築く。  
特に女性は色香(いろか)に  
よってそれを実行できる。  
フェロモンを放ち続ける人。

# 壬子～汪溢の水(おういつのみず)

- 卯月生まれの春水は色情深く、水汪と水濁でまともな生活は出来ない。
  - 世の中の常道(表街道)を離れて成功する特殊命運となる。
  - 女性の場合、色事で天下を取ることもある。  
→則天武后(イメージとして)  
中国史上唯一の女帝となり武周を立てた人。

【例】

壬 癸 壬  
子 卯 申



半会(化水)

春生まれの汪水(宿命は水多・濁水)  
・子一申の半会化水  
常道で世に出ない人  
アウトローの世界で活躍

# 壬子～汪溢の水(おういつのみず)

- 六十花甲子中、唯一、国際結婚で良好と云われ太鼓判が押せる。
  - 生まれも育ちも環境の相違の多い者同士となる国際結婚では、生活をしていく事が多大なエネルギーの消耗になるのが通常だが、壬子日柱の場合は、その気質が果てしない大海であり、どのような世界にでも流れていく、馴染む要素を所有している。  
(水は、相手に合わせて容易に形を変える事ができる)  
そして力量が、天将星であり、ちょっとした事ではへこたれないから。
- 壬子生まれは、他の干支に燥土【未(夏)・戌(秋)】を必要とする。
  - 壬子自身は水のみで、土によって方向性を導きたい為。

# 壬子～汪溢の水(おういつのみず)

- 一般論として、女性で天将星が2つ以上あると、「夫剋し」と言って、結婚運が悪くなる。

**改良** 相手も二天将星、または貫索星・石門星  
(自我が強い)の人を選ぶ事でバランスさせる。

- 壬子日柱は身強の人であり、「旺身(身強)」は静かに洩らすべし」の格言の通り、自分のエネルギーを木性(甲=鳳閣星、乙=調舒星)へ洩らすこと。その後、汪溢(おういつ)の水を土性(戊=車騎星、己=牽牛星)で押さえることが良い。

## 壬子～汪溢の水(おういつのみず)

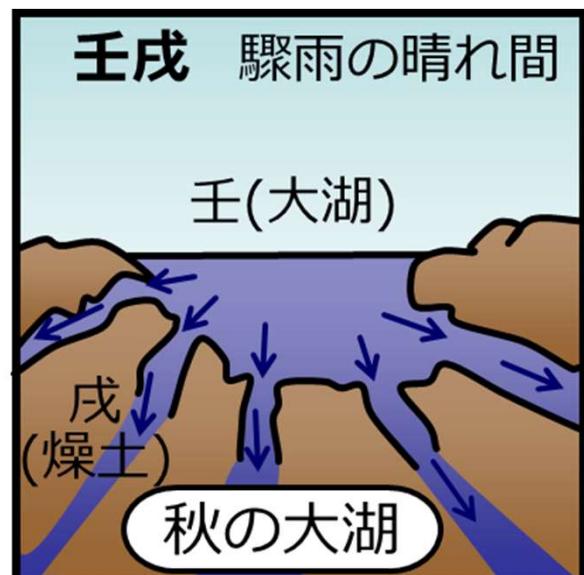
- 壬子日柱が、平凡な家庭や、平和な家庭環境で生まれ育った場合、自力で運を開拓することが困難な人になる。逆に悪環境で育った場合には、自力で運を開拓できる力を養う。

**改良** **若年期に親元を離れることで運命開拓のきっかけをつかめる。**

# 壬戌～驟雨の晴れ間(しゅううのはれま)

壬 水  天南星(10)  
戌 土

辛 金 →玉堂星  
丁 火 →司禄星  
戊 土 →車騎星



## さいご **西湖**

乾燥状態の海。にわか雨の水溜り  
(枯れやすい)。連山に登るが如く、上り  
下りを経て、最後に高い所に昇る  
積み重ねの人生。晩年運かつ名聲名声  
運の強い人。

# 壬戌～驟雨の晴れ間(しゅううのはれま)

- 人生に安定は無いが、努力の中に富貴をつかむ。努力家が多い。

壬〇〇 壬戌を乾燥環境の壬と思考すると  
戌〇〇 晴れ間の長く続く海となる。  
晴れ間の長い海は、その水分が  
蒸発し、散し易い。

その為に、人生が不安定になると  
答えが出る。

# 壬戌～驟雨の晴れ間(しゅううのはれま)

- 連山に登るが如くの人生となり、運の周期が3年位と短い(地支の戌に水が染み込んでしまう)。
  - 壬戌は、天干地支が相剋関係であり、かつ地支から剋される形となる(地支は燥土)。その為、この日生まれの人は、人生に起伏(運勢の上下)が表出する。運の良い時期が2～3年続くと、運の低迷期が2～3年続くといった人生となる。しかし、通常の人よりは財運・物質運に恵まれる。  
※地支の戌は西方の成果・結果世界にあり、形になり易い。
- 生まれた季節によって必要な要素が異なる。

秋・冬生まれ	火性の力を喜びとする。	冷たい海となり、暖かさが必要。
春・夏生まれ	金性・水性の力を喜びとする。	水分が蒸発するので、水源と仲間を必要とする。

# 壬戌～驟雨の晴れ間(しゅううのはれま)

- ・ 座下(藏干)の丁(司祿星＝蓄財)が大きなポイントであり喜びとなり、私財形成の要素となる。
- ・ もし金(通間子)・水が後天運で巡れば、大器の人(自分で思考し自立していく人)となり、どんな逆境であっても努力によって道を切り開いていく。

